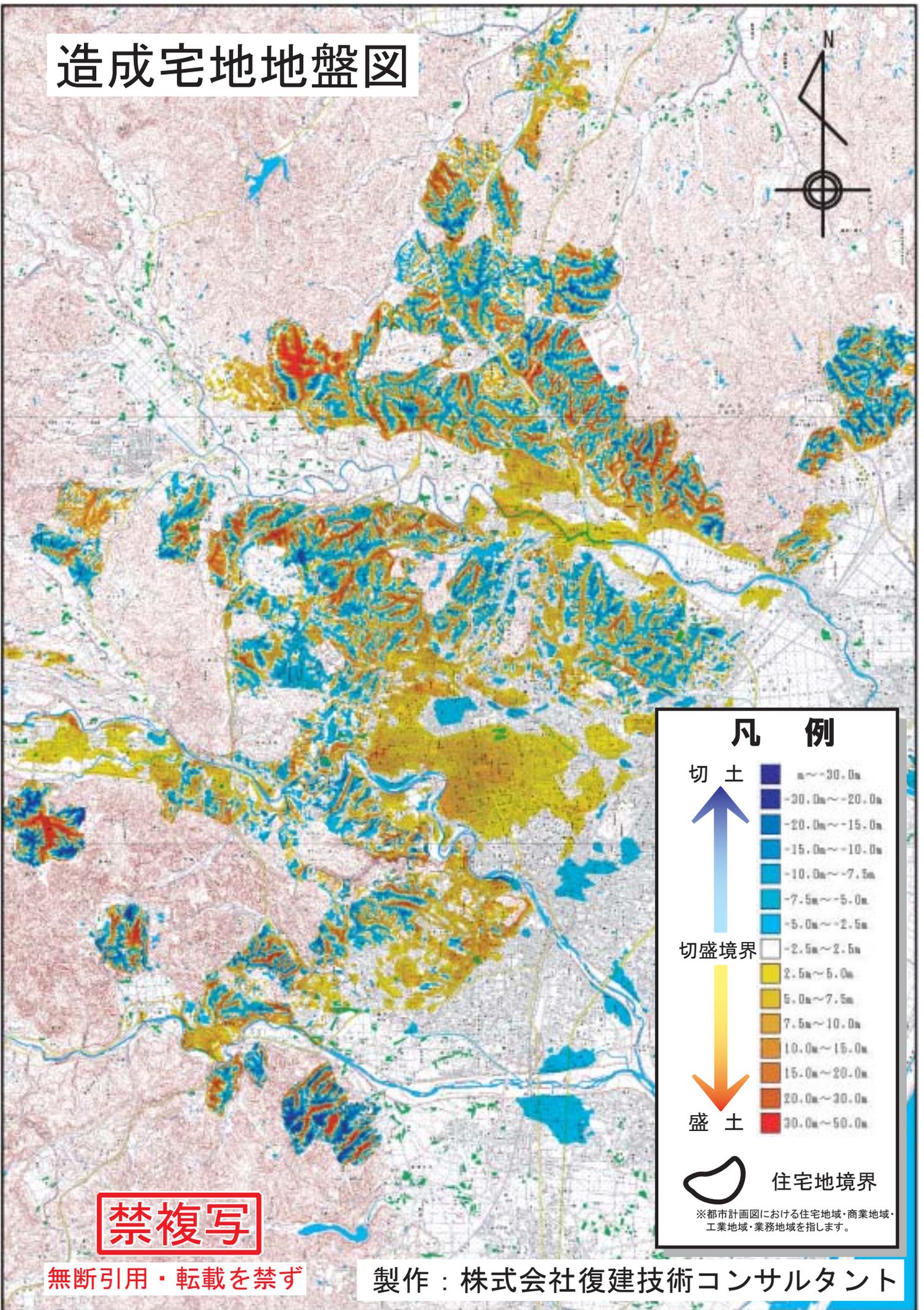


# 造成宅地地盤図



## 凡例

切土	■	m~-30.0m
	■	-30.0m~-20.0m
	■	-20.0m~-15.0m
	■	-15.0m~-10.0m
	■	-10.0m~-7.5m
	■	-7.5m~-5.0m
	■	-5.0m~-2.5m
切盛境界	■	-2.5m~2.5m
	■	2.5m~5.0m
	■	5.0m~7.5m
	■	7.5m~10.0m
	■	10.0m~15.0m
	■	15.0m~20.0m
	■	20.0m~30.0m
盛土	■	30.0m~50.0m

住宅地境界

※都市計画図における住宅地域・商業地域・工業地域・業務地域を指します。

禁複写

無断引用・転載を禁ず

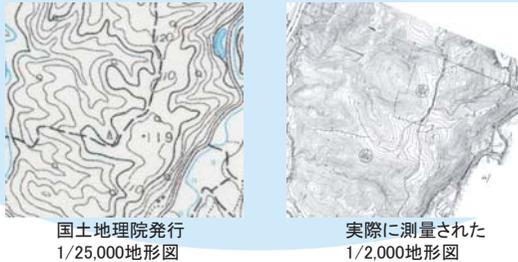
製作：株式会社復建技術コンサルタント

# 誤差について

本図は国土地理院発行の1/25,000地形図をもとに作成しておりますので、相応の誤差を含んでいます。したがって、盛土や切土の分布の概要はわかりますが、詳細については別途検討が必要となります。

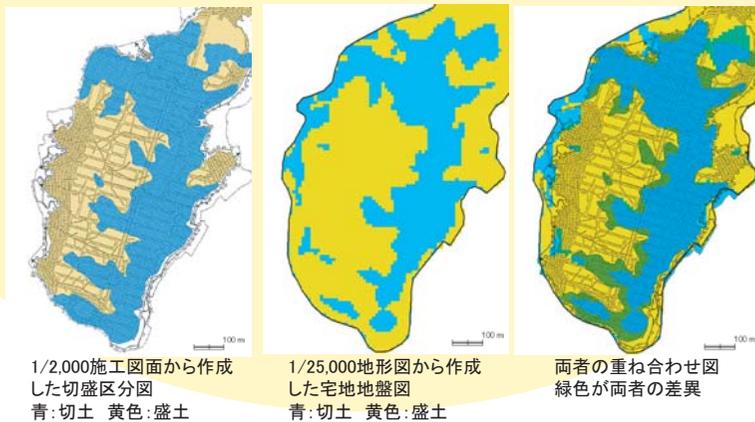
## 1. 微地形の誤差

1/25,000地形図と1/2,000で測量された地形図を見比べると、1/25,000地形図は小さな沢や尾根などの微地形を表現できておらず、等高線の間隔も荒くなっています。したがって、本図においては1/25,000地形図に表現されない微地形は表現されていません。



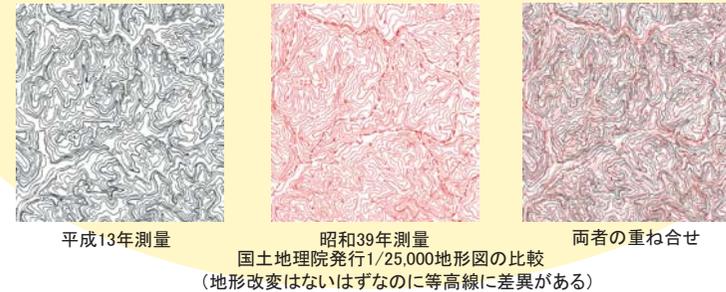
## 3. 切盛境界線の水平誤差

本図と実際の施工図面を比較することにより、どの程度の誤差が出るのか検証した結果、大筋の沢地形は表現できませんが、切盛境界では水平分布で概ね10~20mの誤差があることが確認されました。



## 2. 盛土厚の誤差

国土地理院発行の1/25,000地形図は航空写真をもとにして作成されますが、作成年によって異なる航空写真を用いる場合があるため、同じ箇所でも等高線の引き方に差異が生じます。したがって、本図においては、差分標高値に10m程度の誤差が生じます。



## 4. 平坦地の誤差

1/25,000地形図では、平坦地においては等高線の間隔が広くなり、実際の標高を表しきれません。したがって、本図においては、平坦地における差分標高の信頼性は高くありません。

